

6

随筆

学習日

/

確認問題

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) 毅然Ⅱ自分の信念をつらぬく、しっかりした態度で臨む様子。

〈立松和平「象に乗って」より〉

□(1) —線①「過度な自己主張はなくて」とありますが、このような性質を表すのに最も適切なことを本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

□(2) —線②「もう年をとったし、量産できないのだから、昔から買ってくれる人だけを買ってくればいい。おせいの人が買いに来てくれたって、売るのがないから」という主人の言葉は、「私」のどんな言葉に答えたものだと考えられますか。「私」が言ったその言葉を想像して、十五字以内（句読点も字数に数えます）で、書いて答えなさい。

□(3) 本文中の【 】の部分に書かれているような主人の仕事ぶりから、「私」は何を感じていると考えられますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 技術の未熟さに、かえって人間臭さを感じている。
 イ 自由奔放な商売のやり方にあこがれを感じている。
 ウ 職人としてのこだわりぶりに清々しさを感じている。
 エ あまりの商売っ気のなさに一抹の不安を感じている。

--

□(4) —線③「それ」にあたる内容をまとめたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア おいしい豆腐を作るためにかかる大変な手間。
 イ 毎日同じ仕事を繰り返す豆腐作りの単調な作業。
 ウ 柔らかくてこしのある手作りの豆腐の人気の高さ。

工 量販店の豆腐にはない、手作りの豆腐だけの味わい。

--

□(5) —線④「主人はステンレスの機械を黙々と磨いていた」とありますが、「私」が感じ取っている、この主人の心情として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 豆腐店の主人として自分が長年味わわれてきた苦労やつらさを、子供には味わわせたくないと思っている。
 イ どんなに一生懸命に豆腐を作っても量販店に押され、子供もあとを継がないという現実をさびしく思っている。
 ウ 長年働いてくれた機械に愛着を感じながら、いずれは、新しい機械を導入し、子供にあとを継がせたいと思っている。
 エ あとを継ぐ者はいないが、自分の豆腐を買ってくれる人のために、ひたすらおいしい豆腐を作り続けたいと思っている。

--

□(6) 自分が作った豆腐に対する主人の愛情が、たとえによって表現されている一文を本文中から探し、その最初の五字を書きぬいて答えなさい。

□(7) 本文についての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 豆腐作りの難しさと経営の難しさを対比させている。
 イ 社会の豊かさと消えていく豆腐店とを対比させている。
 ウ 「私」の暮らしと豆腐店の日常の様子とを重ね合わせている。
 エ 豆腐の性質と豆腐店の主人の生き方とを重ね合わせている。

--

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈高樹のぶ子「ブラックノデイが棲む樹」より〉

□(1) — 線①②③にえがかれている子供達の姿から、「私」は何を強く感じ

取っていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア けなげさ イ たくましき

ウ ほがらかさ エ れいぎ正しさ

☐

□(2) — 線①「自分の足が傷ついたような痛み」とありますが、これに近い

「私」の心情を表していることばを、ここより前の本文中から十字以内で書きぬいて答えなさい。

□(3) — 線②「チップ」とありますが、子供達の父親にとって、チップはど

んな意味合いを持つものなのか。それを表す最も適切なことばを、本文中から二字で書きぬいて答えなさい。

☐

□(4) 本文中の「私」の気持ちの変化を述べたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 幼い子供達を相手に割り切った態度をとるクーンに反発する気持ちをいだくが、そんな彼にも子供を思いやる一面があると知って、ほっとする気持ちになった。

イ 幼い子供達に重労働を課すクーンを不快に思っていたが、直接はうぶをわたすわけにはいかないために苦勞しているクーンの大変さを思いやる気持ちになった。

ウ 働く子供達を見てのやりきれなさはクーンの説明を聞いても消えなかったが、彼が思慮に富むやり方で少女に報いていたことを知り、晴れとした気分になった。

エ 懸命に働く子供達に対して何かしてやりたいと思っていたが、自分の知らない所でこっそりほうびをあたえていたクーンのいたずら心を知り、痛快な気分になった。

☐

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈河盛好蔵「人とき合う法」より〉

□(1)

——線①「人の悪口を言うことは、人とき合う上において、欠くことのできないエチケットなのである」とありますが、なぜそう言えるのですか。次から最も適切な理由を選び、記号で答えなさい。

ア 悪口には、それを言っている時には楽しいけれど、翌日になると自分

を反省させる働きがあるから。

イ 悪口には、だれでもが言えて、しかもお金をかけずに人を楽しませる働きがあるから。

ウ 悪口には、その場のふんいきを盛りあげ、人間関係をなめらかにする働きがあるから。

エ 悪口には、他人から、悪口を言われることによって、たえることを覚えさせる働きがあるから。

□(2) ——線②「この種の人」にふくまれる「人」として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア フランスの文学者のジュール・ド・ゴンクールという人。

イ 内向型の人間。

ウ 日ごろ、悪口を小出しにしている人間。

エ ものを書くと、思い切った毒舌をはく人で、直接会ってみるとまことにおだやかで人あたりのよい人。

□(3) ——線③「友人に注文の多いのは結構だが、自分にも足りないところがどっさりあることをわきまえていなくてはならない」ということは、だれに対して「私」が述べたものですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 友情が底にあって悪口を言う人。 イ 悪口を言われた友人。

ウ 悪口を言われても感謝できる人。

エ 友情が底になくて悪口を言う人。

□(4) ——線④「人から悪口をあまり言われない人は、く反省してみることも必要である」と言える理由が最も明確に述べられている一つづきの二文を

【一】の部分から探し、その最初の文の初めの五字を書きぬいて答えなさい。

